

# ネットワーク

本源へ、世界へ

東北大学文学部  
同窓会会報  
2008年9月  
創刊号

文学部同窓会に公式な事務局が誕生しました。これを機に、同窓生と教職員と在学生のネットワークを確立すべく、冊子を発行いたしました。年1回、定期的に発行してまいりますので、情報交流の場所として、発言の場所としてご活用ください。



Information

創立101年目の今秋  
11月10日・12日  
第2回ホームカミングデー開催

2008年10月11日・12日、第2回ホームカミングデーが開催されます(詳細は3pをご覧ください)。写真は、ホームカミングデーにおいて全学イベントの会場に予定されている東北大学百周年記念会館「川内萩ホール」です。旧川内記念講堂が、最先端の音響設備なども含めて生まれ変わります。10月竣工予定となっています(8月中旬撮影)。



News

文学部・文学研究科棟、新装

2008年春、文学部・文学研究科棟が新装になりました。詳しくは、2pをご覧ください(8月中旬撮影)。

## 同窓会報創刊に寄せて



同窓会長  
文学部長・研究科長  
原純輔

昨年の創立百周年を機会に、東北大学では、これまでの全学同窓会が発展的に解消し、在学生や教職員をふくめた「東北大学校友会」が発足しました。また、ホームカミングデーも毎年開催されることになりました。今後、卒業生をはじめとする周囲の皆様に対するサービスを一層強化し、同時に、強く支えていただく存在になろうとする決意が、その背後にあります。

文学部・文学研究科でもまったく同じ課題を抱えています。多様な専門分野から構成されていることもあって、各研究室同窓会に比較すると、文学部・文学研究科同窓会と同窓生との結びつきはずっと弱かったと思います。今後は、強力な各研究室同窓会とも連携しながら、幅広い生涯学習の機会提供など、学部・研究科の同窓会ならではのサービスに努めて行きたいと考えています。

もしかすると、同窓会の仕組みそのものを変える必要があるかも知れません。しかし、それを待つには時間ばかり過ぎるということになってしまいませんか、まず行動から始めようというのがこの「同窓会報」の創刊です。走りながら考えようというわけです。この創刊号には、ホームカミングデーのお知らせにあわせて、学部・研究科の現状についてのニュースが満載されています。また、同封した「考える」ということは、一般市民向けに刊行している広報誌で、高い評価を得ているものです。お楽しみ下さい。

どうか文学部・文学研究科に眼を向けていただき、また機会があれば足を向けてほしい申しあげます。

## 宣言 — この本の立場 —

実利偏重・通俗功利主義がはびこる時代、東北大学文学部・文学研究科は、あえて「人文知の価値」を示したいと思います。この本は、軽佻浮薄な文化への対立軸としての重厚な伝統的学問文化を守り、発展させる媒体です。現実の問題から目をそらすではありません。「企業の社会的責任」を意識する先進的な企業と対話・連携し、あるいは書店や図書館、地域社会との対話を通して、人文社会学的立場から、責任を持った発言をしていきます。さらに、大学で学びつつある、あるいはこれから大学で学ぼうとする若い世代に、「真の実学」としての人文社会学の心髄を伝えたいと思います。ネットを中心に、匿名性を隠れみのとした無責任な発言が、なんとあふれかえっていることでしょうか。この本では、研究者—高校生—大学生—企業—地域社会を結んで、＜文学部流＞を徹底したらこうなるという情報の発信をめざしていきます。



- ◆ 巻頭インタビュー (文学部からの発言)
  - VO1 野家啓一教授 Part 1
  - VO2 野家啓一教授 Part 2
  - VO3 佐藤嘉倫教授 Part 1
- ◆ 企業との対話
  - VO1 河北新報社&長谷川公一教授
  - VO2 東北放送&正村俊之教授
- ◆ 歴代研究者メモリアル
  - VO1 宇井伯壽博士
  - VO2 村岡典嗣博士
  - VO3 山田孝雄博士
- ◆ 研究紹介
  - VO1 原研二教授のブルクハルト批判版全集プロジェクト
  - VO2 芳賀京子准教授の「ロドス島の古代彫刻」
  - VO3 佐藤弘夫教授の「死者のゆくえ」
- ◆ 研究室の金言・名言
  - VO1 ヨーロッパ史研究室から
  - VO2 中国思想中国哲学研究室から
- ◆ 文学部からのインフォメーション
  - VO1 文学部ゆかりの宝もの
  - VO1 西蔵大蔵経
  - VO2 漱石文庫
  - VO3 阿部次郎記念館
- ◆ 図書館・書店との対話
  - VO1 ジュンク堂書店仙台店
  - VO2 丸善仙台アエル店
  - VO3 金港堂書店本店

## 主な内容

2007年3月、「街へ、時代へ、飛びだした」をキャッチフレーズに、『東北大学文学部ブックレット 考えるということ』を創刊しました。現在の知的状況に対して東北大学文学部・文学研究科が黙っているのは無責任ではないか、という強い思いが発行への大きな力であったと言えるでしょう。その趣旨・目的を知っています。ただ、表紙に付した宣言文を記します。

美しい表紙を持った冊子にできあがっており、公共図書館、書店店頭などにも置いていただき、好評を博しています。現在、3号を数えています。いずれは、同窓生の皆さまの発言の場ともしていきたいと考えています。

お読みいただいた皆さまには読後のご感想、これからへのご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

## 発信、発言の場を創るために「文学部ブックレット」創刊

## 第2回ホームカミングデー 文学部同窓会・東北文化研究室共催行事

東北大学では、昨年から同窓生の皆様のために「ホームカミングデー」を開催しております。今年は10月11日(土)・12日(日)に開催されます。詳しくは大学の公式ホームページをご覧ください。東北大学百周年記念会館(旧川内記念講堂)も完成し、10日の記念コンサート、11日の記念式典、仙台セミナーなどの全学イベントも予定されています。(大学問い合わせ：東北大学総務部広報課校友係Tel.022-217-5059)  
文学部の行事としては、次のとおり計画しております。多数の同窓生の皆様のご来賓を期待しております。

## 東北文化講演会 「いま、方言が面白い！」

同窓会と文学部東北文化研究室の共催で講演会を開きます。  
期 日 10月12日(日)  
場 所 文教大講義室  
企画名 東北文化講演会「いま、方言が面白い！」  
次 第 13:30～13:40 開会の挨拶  
13:40～14:20 講演1 小林 隆  
「方言の隠れた魅力」  
14:20～15:00 講演2 藤沢智子(東北放送)  
「仙台弁かるたが出来るまで」  
15:00～15:10 休憩  
15:10～15:55 対談 小林 隆+藤沢智子  
15:55～16:00 閉会の挨拶  
(引き続き、同窓会主催の卒業生対象の茶話会開催)

## 東北大学「ホームカミングデー」の概要

**【趣旨】**  
ホームカミングデーは、卒業生、在校生・保護者、教職員、地域住民と一体感ある大学づくりに資することを目的として昨年度創設したもので、卒業生や地域住民等をキャンパスに招いて、本学の現状や研究成果等の紹介、親睦・交流を図るイベントなどを開催します。

**【内容】**  
●2008年10月11日(土)  
東北大学校友会第1回総会  
時間：10:00～10:30  
会場：東北大学百周年記念会館(川内萩ホール)  
記念会館完成記念式典  
時間：10:30～12:00  
会場：東北大学百周年記念会館(川内萩ホール)  
内容：記念式典(10:30～11:00)  
学友会等オーケストラ・合唱団による演奏(11:00～12:00)  
東北大学シンポジウム  
時間：12:50～16:00  
会場：東北大学百周年記念会館(川内萩ホール)  
内容：地域と自動車産業をテーマに、本学関係者及び各界の代表者による基調講演とパネル討論を行う予定です。

## 同窓生懇談会・ 研究室訪問

講演会終了後、お茶とお菓子で懇談します。その後、各研究室訪問が予定されています。  
会 場 文学研究科・文学部棟2階大会議室



**在校生と卒業生との親睦会**  
時間：12:00～18:30  
会場：川内北キャンパス講義棟  
内容：卒業生と在校生との出会い、語らいの場を設け、卒業生には本学学生に対する企業のPR(仕事の楽しさ・魅力)の場として、学生には社会人との交流を通じ、今後の学生生活の充実及び進路選択に役立ててもらいます。

**施設開放**  
(史料館、階段教室、附属図書館、植物園、自然史標本館、阿部次郎記念館)  
時間：9:00～17:00  
●2008年10月12日(日)  
学友会、部局又は部局同窓会主催行事の開催。記念会館の貸出も行います。

※ホームカミングデーの開催に併せて、10月10日(金)18:30から記念会館完成記念コンサートが東北大学百周年記念会館(川内萩ホール)で開催されます。

**【申込み方法】**  
受付期間：8月中旬～9月中旬  
申込み方法：東北大学のホームページで案内する予定です。

※詳細は校友会のホームページをご覧ください。  
<http://web.bureau.tohoku.ac.jp/alumni/>

## 東北大学市民オープンキャンパス 紅葉の賀

11月3日(文化の日)、東北大学植物園などを会場に、文学研究科と東北大学植物園共催の「紅葉の賀」を開きます。  
毎年「市民講座」の一環として実施しているものです。今年も、植物園の美しい紅葉に包まれて、芝生の上での野点、植物園の中での俳句会、学術講演会など多彩な内容を予定しています。お誘い合わせてお出かけください。

### <植物園公開・野点・俳句会>(会場：東北大学植物園)

植物園公開 9:00～16:00  
オープニング 10:00  
野点 10:00～13:00  
茶道裏千家 淡交会宮城支部 岡崎宗澄  
植物園内散策 10:30～  
1時間ほどの解説つき散策  
俳句会 投句締め切り13:00(投句自由/囁目吟)

### <公開講演会・俳句会表彰>(会場：川内萩ホール[旧・川内記念講堂])

### 「何故モミジは赤くなるのか？」

東北大学植物園長・鈴木三男 13:00～14:00

### 「おとぎの国のサイエンスを語ろうー紅葉から広がる科学と文学」

作家・東北大学機械系特任教授・瀬名秀明 14:05～14:55

### 俳句会表彰

16:00～16:30  
俳人協会宮城県支部長・東北大学名誉教授・柏原眠雨

(問い合わせ先：「紅葉の賀」準備委員会 岩田美喜 Fax:022-795-5960 E-mail:iwachan@sal.tohoku.ac.jp)

当日15:05～15:50に、公開講演会と同じ会場で文学研究科主催による「青春のエッセー 阿部次郎記念賞」の授賞式が開催されます。全国の高校生による「エッセーの甲子園」の授賞式です。こちらも是非ご参加ください。



## 文学研究科の「社会階層と不平等教育研究拠点」 グローバルCOEに採択 佐藤嘉倫教授(行動科学)が拠点リーダー

平成20年度「グローバルCOEプログラム」(GCOE)に文学研究科の「社会階層と不平等教育研究拠点」が採択されました。このGCOE教育研究拠点は、行動科学専攻分野の佐藤嘉倫教授が拠点リーダーとなり、他20名の教員で組織するものです。今後5年間にわたり、共同プロジェクトが続けられます。  
佐藤教授は、1955年から10年ごとに調査が行われている「SSM調査(社会階層と社会移動全国調査)」に1985年から参画し、2005年には代表幹事として調査を実施してきました(『文学部ブックレット』vol.3参照)。2005年調査では、「労働市場の流動化」と「階層の固定化」をキーワードに日本、韓国、台湾で調査を行いました。佐藤教授は、東アジアを中心に国際的なスケールで調査研究を展開し、(1)格差の実態を解明する実証問題、(2)格差を生み出すメカニズムを解明する理論問題、(3)格差がもたらす社会的影響を解明し、政策提言を視野に入れた帰結問題という3つの格差問題に取り組んでいます。  
なお、佐藤嘉倫教授は、2008年8月1日付けで、ディスティングイッシュトプロフェッサーに発令されました。文学研究科としては下記的小林隆教授に次いで二人目となります。



## 小林隆教授(国語学) ディスティングイッシュトプロフェッサーに就任

東北大学は、2008年4月1日、東北大学の研究を代表する25名の看板教授を「ディスティングイッシュトプロフェッサー」の名で発表しました。それぞれの専門分野で極めて高い業績を有し、かつ先導的な役割を担う研究者としての選定となっています。  
文学部・文学研究科では、言語科学専攻の小林隆教授が就任しました。教授は、方言学的日本語史の研究、東北方言の調査と分析などを課題とし、『方言が明かす日本語の歴史』(2006年)、『シリーズ方言学 全4巻』(2006-08)などの著作、編著作で知られています。



## 芳賀京子准教授(美学・西洋美術史) 地中海学会へレンド賞受賞

2007年6月、西洋美術史専攻の芳賀京子准教授の労作『ロドス島の古代彫刻』(2006年2月中央公論美術出版)に対して、地中海学会レンド賞が贈られました。地中海学会は、「地中海・環地中海域を総合的に研究する場、および種々の関連分野間の交流の場」として設立された学際的な学会で、レンド賞は若手研究者への奨励賞にあたるものです。  
『ロドス島の古代彫刻』は、B5判・本文701ページにも及ぶ大作。ギリシア、ローマ時代の地中海で一大海洋貿易都市として栄えたロドス島を舞台に、主たる産業としての彫刻の盛衰をまとめたものであり、7年間にも及ぶ研究成果がたっぷり詰まっています。(『文学部ブックレット』vol.2参照)



## 阿部次郎記念賞「青春のエッセー」 第1回入賞作品集発行 第2回作品募集中

2007年、東北大学創立100周年記念事業の一環として、文学部では、阿部次郎博士(『三太郎の日記』で一世を風靡した)の業績を記念する「阿部次郎記念賞 青春のエッセー」を制定。全国の高校生から作品を募集し、10月に表彰を行い、2008年3月に入賞作品集を発行しました。  
そして、9月10日作品締切、11月3日表彰式というスケジュールで、第2回作品の募集中です。身近な高校生に作品応募をPR願います。(『文学部ブックレット』vol.3参照)



## 文学研究科・文学部棟、 新装なる

同窓生の皆さんの多くが学ばれた9階建ての文学研究科・文学部棟は、築後30年以上を経過して、痛みが激しくなっておりまして。昭和53年の宮城県沖地震には何とか持ちこたえましたが、近々予想される次の宮城県沖地震では大きな被害が予想されます。そこで昨年夏から大規模な耐震改修工事が行われました。外枠だけ残して、壁、天井、床など、完全にリニューアルされました。ホームカミングデーでは新装なった建物をぜひ御覧ください。

## 同窓会報創刊に寄せて 副会長 菅井 茂



この度、事務局の取り計らいにより「文学部同窓会報」を発行することができ、大変うれしく思っています。これまで3年間文学部同窓会の仕事に関わってきましたが、会員の皆様との結びつきをなかなか実感できないでいました。今後はこの会報を通して会員の皆様といろいろと交流ができ、直接結ばれていると感ずることができるものと確信しております。  
また、会員の皆様にも同窓会の存在を実感していただくだけでなく、この会報を通して、現在大学でどのような先生が、どのようなご研究をなされているかを知っていただくこともできますし、大学の様子や会員同士の様子も窺うことができるものと思っています。  
ところで、国立大学が独立法人化したことにより、業績主義に基づいた予算配分となり、東北大学でも「実学尊重」(建学以来の理念の一つ)の名のもとに、産業界と結びついた学部は十分な予算を確保できるが、文学部のように産業界とは直結しない「人文知」の研究と伝統的学問文化の継承・伝達を主とするような学部に対する予算配分は厳しいと伺っています。また昨年度の「東北大学全学同窓会総会」(このような組織があったということも分らないかなったのですが)で、「東北大学全学同窓会」が、教職員・在校生・卒業生・保護者を構成員とする「東北大学校友会」に発展解消し、東北大学のユニバーシティ・アイデンティティを強めていくということが決まりました。  
このように文学部にとっての環境が厳しい時期に、この「文学部同窓会報」が創刊されることは、文学部としての強い意志の表れであると思っています。われわれの「文学部同窓会」がより確かな組織として活動していけるかどうか、また「文学部同窓会」がより一層皆様の身近なものになれるかどうか、さらにこの「同窓会報」が今後充実したものになるかどうかは会員皆様のご寄稿等によるものと思いますので、今後ご意見等をどしどしお寄せ下さいますようお願い申し上げます。



【国文学研究室】

学部の2年生15名、大学院の入学... 進学生8名を新たに迎え、本年度も学生... 教員70名を超えた本研究室では、変わらぬ活発な研究活動を行っています。

【日本思想史研究室】

ここ数年の日本思想史研究室の大きな変化は、なんといっても研究棟の改修工事により、共同研究室がリニューアルしたことです。皆さんの汗と手垢、紫煙と酒薫り、でまみれた大机も無くならず、すこし寂しい気もしますが、中にいる学生、教員は、相変わらずです。

【中国文学中国語学研究室】

最近では、院生や学生が、切れ目無く留学しています。交流協定を結んでいる台湾中山大学とは、ほぼ毎年、留學生の交換があります。ほかに今年度は、院生が北京大学、廈門大学、台湾大学に留学中、この10月にもう一人復旦大学に留学しま

【倫理学研究室】

倫理学研究室は現在、戸島貴代志教授、齋藤直樹助教の両スタッフの下、大学院博士課程4名、修士課程4名、学部生19名のメンバーで日々研究を重ねています。共に合同研究室を構成する哲学専修のメンバーとさまざまな場面で密接な連携を保ちながら、他方で、機関紙『モラリア』の公刊(現在第15号を準備中)、あるいは倫理専修主催の夏合宿の開催(今年度は8月1〜3日、気仙沼大島)など、独自の活動も積極的に展開しています。

【言語学研究室】

言語学研究室の近年の変化として、学部学生が若干ながら増加していること、大学院生の間での留學生の比率が高くなったこと、研究テーマとして言語獲得や心理言語学などの実験系を選択する学生が多くなったこと、部屋の使い方を見直して実験室を設けた点などが挙げられます。社会調査やコーパス研究などの方法を探る学生もいて、幅の広がりを感じさせますが、反面、マイナーな言語への関心が薄れているようにも見えます。就職状況は、学部も大学院も時代を反映しているといったところでしょうか。

【国語学研究室】

日本語への関心の高まりを反映してか、近年、研究室に集まる学生の数は増え、今年度ついに80名を超える大所帯となりました。教員は、一昨年度、滋賀大から甲田直美准教授が赴任され、助教を含め5名が揃いました。新入生歓迎会から予餞会までの一連の年中行事は、今も健在です。今年度は、研究室の初代教授であ

す。研究室には、中国人院生と韓国院生が各一人、10月にはさらに中国から一人、韓国から一人、研究生が増えます。留学志望の学部2年生や3年生は、「どこに留学しようかな」と賛沢な悩みをかかえています。

就職も、このご時世としてはありがたく、博士課程では二〇〇三年から二〇〇五年まで毎年一人ずつ大学に就職、来年4月にも一人が亜細亜大学経営学部に着任予定です。研究室の活動については、ウェブサイトをどうぞご覧ください。

【中国思想中国哲学研究室】

二〇〇八年度研究室の構成人員について、その概略を紹介します。学部学生は、2年次生2名、3年次生3名、4年次生1名、大学院生は、M.C生3名、D.C生4名、以上13名の男女比は7対6です。大学院生の研究分野を時代順に並べれば、古代の「勢」思想史、鬼谷子と老荘、古代中世の老子解釈、中世の観音信仰、宋代における「道」の思想、李卓吾の四書解釈、清代中期の学術であり、3名のスタッフ、教授三浦秀一(近世思想研究)、准教授齋藤智寛(中世宗教思想研究)、助教渡邊健哉(元大都研究)がその指導をおこなっています。

【インド学仏教史研究室】

二〇〇七年4月吉水清孝准教授が着任しました。専門はミーマンサー学派を中心とした初期中世のインド哲学史で、更に充実した研究環境が整いました。現在学生・院生の総数は12名です。モンゴル出身の留學生に加え、10月から新たにアメリカからの特別聴講生を迎える予定です。専門研究員(課程博士修了者は4名、うち1名がインド留學生中)です。また研究室出身の海外特別研究員(学歴がドイツで研究しています)。

【日本語教育学研究室】

研究室が発足してそろそろ20年! 目下の教員構成は、才田いずみ(教授、一九九〇年着任)、鈴木淳子(教授、一九九六年着任)、名嶋義直(准教授、二〇〇四年着任)、田中重人(講師、二〇〇一年着任)に加えて、協力教員の助川泰彦(国際交流センター准教授、二〇〇四年着任)となつています。また、2年間助教(助手)を務めた栗原通世(今年度から国士館大学講師)に代わって、今年度から韓国出身の呉正培(オ・ジョンベ)が研究助手として活躍しています。学生たちは、学部も大学院も、相変わらず実習や論文作成で忙しくしています。

【日本史研究室】

日本史研究室の現在の教員は、古代史担当今泉隆雄教授、中世史担当柳原敏昭准教授、近世史担当大藤修教授、近現代史担当安達宏昭准教授です。今年3月で中野渡俊治助教の任期3年が切れましたので、4月より風間亜希子が研究助手として研究室の事務を担当しています。日本史は学部・大学院ともに人気が高く、近年は大学院在籍者は40名前前後で推移し、学部生、研究生等を合わせると90名前前後にのぼる大所帯です。今泉教授は来年度で定年を迎えられますので、その記念行事の準備を進めているところです。

【考古学研究室】

考古学研究室は今年2年生7名を迎えて、院生・学生21名となり、明るい雰囲気です。院生、調査研究に取り組んで

6月に宮城学院女子大学で第51回印度学宗教学会学術大会を開催し、来年は金沢大学で開催予定です。研究室の活動はウェブサイトに掲載しておりますので、御覧下さい。

【英文学研究室】

本年4月、イーアン・トウィッディ准教授が着任しました。まだ20代の元気あふれるイギリス人です。専門は現代詩です。14年間在職したピーター・ロビンソン先生は平成17年3月に退職され、現在はイギリスのレディング大学教授となっております。学生・院生は総数約40名、相変わらずたいへん賑やかな研究室です。「詩のオリエンテーション」を毎年実施しているほか、伝統の「アサインメント」も続いています。研究室の活動はウェブサイトに随時掲載していますので、どうぞご覧ください。

【英語学研究室】

英語学研究室では、この3月に、前任教授の中村捷先生が定年を迎えられ退官されました。昭和56年4月の赴任以来、実に27年の長きにわたり、英語学研究室の充実・発展に力を尽くされたばかりでなく、文学部・文学研究科ならびに東北大学の運営にも多大な貢献をされました。4月には、中村先生の後任として、山口大学より島越郎准教授を迎え、研究室は、人的にも物的にも衣替えとなりました。船出したばかりで、何かと覚束ないこともございますが、今後とも同窓生皆様のご協力の程、よろしくお願いいたします。

【ドイツ文学研究室】

この頃の「ドクブン」は以前とは様変わりしました。現在、学部生・研究生が30名弱、社会人を含む大学院生が10名おられます。最新の刊行物として「考古学談叢(須藤隆先生退任記念論文集)」「芹沢長介先生追悼、考古・民族・歴史学論叢」があります。総合学術博物館紀要として早水台遺跡の報告が刊行されました。最近では群馬県鶴ヶ谷台遺跡(二〇〇四・二〇〇五)などの発掘、試掘を行っています。学生は多賀城跡(連携大学院、白石市和尚堂遺跡、丸森町台町古墳群測量(理文の藤沢特任准教授)などに参加しています。卒業生の皆さん、研究室にお立ち寄りください。

【東洋史研究室】

最近5年間では、平成15年3月に、安田二郎教授が退休されました。同16年10月には、明清官僚制度をご専門とされる大野晃嗣講師をお迎えし、現在、熊本崇教授、川合安教授の三人体制で学生の指導にあたっています。現在研究室構成員は、助手1名、専門研究員2名、大学院研究生1名、博士後期生4名、博士前期生2名、学部生11名で、二時に比べ学生の人数は減少しましたが、以前と変わらず研究室は活気に溢れています。また、最近では、博士生の中国への留学が増えました。今年9月にも2名の学生が当地へ出発する予定です。

【ヨーロッパ史研究室】

大学院整備重点化の際に、伝統ある西洋史研究室の名称は、専攻名「西洋史」から「ヨーロッパ史」へと変更になり、ヨーロッパ史研究室となりました。内容に変化は全くありませんが、南北アメリカも研究対象であることを、専攻ガイドンスにおいて毎回説明しなくてはならなくなっています。

平成19年度末をもって、古代史の松本宣郎教授が退任となりました。先生は一九七八年(昭和53年)着任です。どうぞ九七〇年おつとめになりました。最終講義には、文教大講義室に立ち見ができるほど

り、昼休みともなると、一緒にお昼を食べる学生たちで研究室はにぎやかに沸き返っています。伝統や権威に根ざす余計な先入見が減びたことで、かえってひとりひとりが素直に芸術・文化を享受できる時代になったようです。研究テーマも映画やポップ音楽から社会問題までさまざま、教員が学生から教えられることもしばしばです。就職支援にも力を入れており、修士課程を終えて民間に就職するケースも多くなってきました。

【フランス語学フランス文学研究室】

フランス文学研究室には、現在、学部と大学院を合わせて37名の学生が在籍しております。学内外の留学制度が整ってきたこともあり、昨年度はこの中で6名が長期留學生中でした。若い学生にとつて、フランスは書籍の中にあるだけでなく、実体験の場になってきています。しかし、学生の進路は作家や編集者志望、公務員や大学職員、書店や銀行、語学力を生かしてフランス大使館に就職した者などなど、卒論のテーマも文学や語学に限らず、映画、料理、カフェ、女性誌研究など、研究室の自由な雰囲気は昔と変わりがありません。大学院には定年退職後に研究を志された方が2名おられ、熱心に学んでおられます。

【哲学研究室】

現在の教員は、野家啓一教授、座小田豊教授、直江清隆准教授、萩原理准教授、菅沼聡助教(旧職名・助手)の5名です。現在准教授を1名公募中です。昨年来年4月には着任していただけるでしょう。ここ数年スタッフが入れ替わりましたが、研究室の運営、学生たちの様子などは以前と変わりません。研究室の各種行事もこれまで通り倫理学と合同で行われており、昨年19年度には文学部野

でした。「古代ローマ帝国と初期キリスト教の社会史」という演題でした。現在は、古代史担当教授を欠いておりませんが、ブリテン諸島の有光秀行准教授とドイツ中世史・近世史の小野善彦教授、さらにハプスブルク帝国史を研究する佐藤勝則教授の三名が研究室を担っております。

大学院学生は、総勢20名、学部学生は42名(2年生以上)となっております。景気回復の結果もあって4年次の就職率はきわめて好調に推移しております。

【東洋・日本美術史研究室】

現在研究室は、泉武夫と長岡龍作の教員2名、研究助手の海野啓之、学部生8名、大学院生13名、研究生1名によって構成されています。学部生たちは授業の側ら、院生の企画する見学会などに参加し、また進んで関西方面に出かけています。大学院生は、科学研究費による国内外の調査に積極的に参加し、大きな力となっております。今年四月には、大分県立歴史博物館に井上大樹、ふくやま美術館に濱田恒志の2名を学芸員として送り出しました。教員・院生ともども忙しい日々が続いていますが、研究室は今、たいへん活気ある状況です。

【美学・西洋美術史研究室】

二〇〇五年3月末をもって、一九七三年に国立西洋美術館から本学に着任された爾来、30年以上にわたり本研究室で教育研究にあたられた田中英道先生が停年により、退職されました。先生は、ルネサンス研究ばかりでなく、近年は、日本美術研究あるいは日本文化研究へと幅広い発言をされてこられたことはよく知られています。

二〇〇六年8月、田中先生の後任として、やはり国立西洋美術館から芳賀京子氏が着任されました。氏は、本研究室初代西洋美術史教授であった児島喜久雄以

来の伝統である古代美術史畑において新進気鋭の研究者です。

現在研究室には、大学院生17名、学部生24名が所属しています。

【社会学研究室】

社会学研究室では、昨年度、家族社会学を専門とする下夷美幸准教授を新たに迎え、教員5名となり、教員・学生ともに新たな気持ちで各自の研究テーマに取り組んでいます。本年度も花見、卒業論文（構想）発表会、芋煮会など、約80名が一同に集まる場で交流を深めています。また自主的に読書会・勉強会を開いたり、文学部野球大会に向けた練習で毎週、汗を流したりして、学部生・院生の日常的な交流も活発におこなわれています。

【行動科学研究室】

行動科学研究室は二〇〇八年4月で創立25周年を迎えました。3月をもって、20余年にわたり研究室の発展にご尽力された海野道郎先生が退職されました（4月より本学「総長特命教授」に就任）。最終講義・退職記念祝賀会には同窓生や研究者など多数の方々にご参集いただきました。4月より浜田宏先生を准教授としてお迎えし、今年度採択されたグローバルCOEプログラム（社会階層と不平等教育研究拠点）では、行動科学の教授・准教授全員が事業推進担当者となっています（二〇一二年度まで）。二〇〇九年春には原純輔先生がご退職の予定で、現在、記念事業の準備を進めています。

【心理学研究室】

二〇〇八年4月に辻本講師が准教授に昇任し、教授3名・准教授（旧・助教）2名・助教（旧・助手）1名の体制となりました。学部生は2年から4年までの

47名が元気にやっています。次第に女性のほうが多くなってきました。大学院は前期課程10名・後期課程20名（うち、社会人コース5名で、こちらは少し男性が多いようです。このほか、研究生2名、専門研究員・特別推進研究員各1名が在籍しています。留学生も多く（学部で2名、大学院で3名、研究生で1名、おかげで居ながらにしてミャンマー・中国・タイの文化に接することが出来ます）。

【文化人類学研究室】

一九九三年に研究室が設置されて今年で16年目となり、同窓生も150名を超えるに至りました。二〇〇二年から研究誌『東北人類学論壇』を発行しています。昨二〇〇七年には文学部棟耐震改装工事により美しく模様替えされるとともに、研究室内の配置もちよつと変わりました。しかしアットホームな雰囲気は続いています。学部の進学生は毎年10名の定員をほぼ満たしており、研究室の大タイプは、日々にぎやかなコミュニケーションの中心をキープしています。詳しくは <http://www.sai.tohoku.ac.jp/anthropology/> をご覧ください。

【宗教学研究室】

宗教学研究室には、現在4人（助教を含む）の教員、54人の学生が在籍しています。近年の出来事としては、研究室の成果の発表の場として二〇〇五年度より年刊『東北宗教学』の発行を始めました。学術論文はもちろん、著作について著者自身に語って頂く「自著を語る」や、研究や研究室をめぐるエッセー「学びの杜」などのコーナーを設けております。卒業生でご希望の方には贈呈させて頂いておりますので、研究室（022-2179516022）まで是非ご一報ください。

本誌『ネットワーク 東北大学文学部同窓会報』は、文学部からの一方的な情報発信のためではなく、同窓生の皆様との相互交流の媒体となることをめざしています。東北大学文学部出身者、教員（過去の在職者を含む）、在学生の間で緊密な「ネットワーク」を形成し、社会の中での存在感を高めていきたいものです。次号以降ではこの目的に沿った誌面作りを計画しています。そのためには同窓生の皆様からさまざまな形でご協力いただかなければなりません。その手始めとして、左のように皆様からのご意見やご投稿を募集します。

**ハガキで、ご意見、情報をお寄せください。**

- ◆同窓生の皆さまの近況をお知らせください。
  - \*本誌に掲載させていただく場合がございます。
- ◆この同窓会報についての
  - ご意見、ご要望をお寄せください。
  - \*今後の編集の参考とさせていただきます。
- ◆ブックレット『考えるということ』について
  - ご意見、ご要望をお寄せください。
  - \*今後の編集の参考とさせていただきます。

**ご投稿もお願いします。**

本誌では、同窓生の皆さまのエッセイ、大学や社会への提言など、原稿を募集します。左記の要領により、同窓会事務局までお寄せください。

【内容】ご自由です。

【長さ】800〜1200字程度までにまとめてください。

【体裁】ご投稿の用紙・書式等はご自由です。郵送、ファックス、電子メールによりお送りください。

【受付】ご投稿は随時受け付けております。

【掲載】ご投稿を掲載するかどうかは、編集委員会（同窓会幹事会）で決定します。掲載できない場合もありますので、ご了承ください。また内容について、編集させていただく場合があります。これについてもあらかじめご了承ください。

【東北大学校友会発足—全学同窓会を発展的に改組】

2007年10月6日、東北大学ホームカミングデーに併せて開催された東北大学全学同窓会総会において、全学同窓会の発展的改組による東北大学校友会の設立構想が提案され、設立宣言とともに校友会の発足が承認されました。

これまでの全学同窓会は名目的な組織で、実質的な活動実態はありませんでした。創立百周年を機に全学同窓会活性化の機運が高まりました。そこで、次の百年の大学づくりの礎として、卒業生に加えて、在校生、現職の教職員、在校生の保護者、大学への協力者を会員として、会員相互の親睦と交流を図ることにより、大学と会員とのコミュニケーションを密にして「東北大学コミュニティ」の連帯意識を醸成・強化することを目的

とした校友会が設立されることになったわけです。

文学部同窓会は「基礎同窓会」（部局別の同窓会等、既存の同窓会組織）として校友会に参加することになりました。校友会はこうした基礎同窓会を土台とするものですので、私たちの組織が強化されることにより、校友会も実質的な内容を備えていくことになると思われます。校友会の事業計画では、ホームカミングデーの開催、「東北大学メールマガジン」の発行、基礎同窓会との連携・協力などが重要な柱となっています。

※東北大学校友会ホームページ <http://web.bureau.tohoku.ac.jp/alumni/>

東北大学メールマガジンの発行

【趣旨】東北大学メールマガジンは、創立100周年記念事業の一環として、卒業生をはじめ本学関係者及び一般の方を対象に母校に関する様々な情報を定期的に提供するため、東北大学、東北大学全学同窓会及び財団法人東北大学研究教育振興財団の三者が発行主体となり、2005年度の11月より発行してきました。また、大学と同窓生あるいは同窓生同士のネットワークづくりを促進することを目的に、同窓生生涯メールアドレスを同窓生会員に付与してきました。今後、メールマガジンは、東北大学校友会の発足に伴い、東北大学、東北大学校友会、財団法人東北大学研究教育振興財団の三者で発行し、校友会の重要な情報提供手段として位置づけられます。

※「東北大学メールマガジン」のホームページは次の場所にあります。  
<http://www.alumni.tohoku-university.jp/>

【概要】  
(1)発行時期：年4回（4、8、10、1月）の発行。

東北大学のロゴマーク制定

東北大学は2005年に公式ロゴマークを制定しました。ロゴマーク制作に当たり、キーコンセプトとなったのは、“creativity”“global”“tradition”です。萩は、昔から宮城野や仙台を象徴する植物とされ、本学の種々のマークにも使われてきました。制定されたロゴマークの形は、萩の品格を失うことなく世界に大きく広がっていく動きを表現しています。



基礎同窓会との連携・協力

【趣旨】部局同窓会総会や国内あるいは海外にある支部同窓会総会等に本学の役員等が訪問し、卒業生や在校生の保護者と親睦・交流を深めます。また、総会に併せて開催される講演会などにも積極的に講師を派遣して、本学の現状や研究成果等を卒業生や在校生の保護者等に紹介します。

【概要】  
1.部局別同窓会及び支部同窓会の総会への役員等の出席  
2.移動講座・交流会の開催計画

支部同窓会等と連携して、全国各地に在住する同窓生、在校生の保護者、元教職員等に対し、東北大学の現状や研究成果等をお伝えするとともに、親睦・交流を深めることを目的に、移動講座・交流会を開催する。今年度は、郡山市、千葉市、名古屋市、大阪市での開催することを検討中。

同窓会事務局（社会連携推進室）正式に開室しました

昨年、社会連携ディヴィジョン（詳しくは別記事を参照）が発足し、それに伴ってこれまで非公式なものであった同窓会事務局が「社会連携推進室」として正式に開室しました。今のところ月曜日と金曜日の週二日のみですが、同窓生からのさまざまなお問い合わせや住所変更のご連絡などに対応することが出来ます。

電話 022-179516087（月・金 午前10時〜午後5時）  
ファックス 022-179516086  
電子メール [doosakai@sai.tohoku.ac.jp](mailto:doosakai@sai.tohoku.ac.jp)

同窓生名簿の作成について

文学部同窓会では、このほど7年ぶりに同窓会名簿の全面改訂に着手し、この3月にお手元に住所データ等確認の照会を差し上げました。この新しい名簿に基づき、今後、文学部・文学研究科は同窓生の皆さまにさまざまなサービスを提供していく予定です。

●同窓会会員名簿（冊子体）の刊行について

【アンケート結果】前回の会員名簿（平成12年度版）は平成13年2月に刊行されました。その後、平成17年に個人情報保護法が施行されるなど社会情勢の変化により、本来なら平成17年度中に刊行すべきだった名簿は刊行されないままになっていました。しかし、各地の同窓会支部の代表者の方などからは冊子体名簿の刊行を求める要望が強く出されております。一方では、個人情報を出さないことを希望される会員も増加しています。そこで、同窓会幹事会では、去る3月に同窓生の皆様全員に住所等データ確認のお願いを発送した際、会員名簿（冊子体）の刊行について、アンケート調査を行いました。その結果を別表の通りご報告いたします。

同窓会幹事会では、刊行を希望する方が回答数の半数を超えましたので、刊行する方向で検討に入りたいと考えています。ただし、以下のような原則で作成することになると予想されます。

- 勤務先は原則として掲載しません。掲載をとくにご希望の方については掲載します。
- 「勤務先電話番号・現住所電話番号」は原則として掲載しません。掲載をとくにご希望の方については掲載します。
- 「現住所」については、原則として掲載します。ただし、掲載しないことをご希望の場合は掲載しません。
- 掲載すべきデータのご希望については、あらかじめ全同窓生にご意向をお伺いします。

平成12年度版の会員名簿は500ページを超えるものでした。今回の会員名簿はページ数がさらに増加すると見込まれます。相当な費用がかかると思われ、実費によりご購入いただくこととなります。あらかじめご了承ください。

冊子体名簿刊行について	数
回答（返送）数	3236
刊行すべきである	1771
刊行すべきでない	804
回答なし	661

冊子体名簿の勤務先掲載	数
回答（返送）数	3236
掲載する	1591
掲載しない	1645

冊子体名簿の勤務先電話番号掲載	数
回答（返送）数	3236
掲載する	1002
掲載しない	2234

冊子体名簿の現住所電話番号掲載	数
回答（返送）数	3236
掲載する	1532
掲載しない	1704

冊子体名簿の現住所掲載	数
回答（返送）数	3236
掲載する	2126
掲載しない	1110

2007年～08年、同窓生のこんな著作が見られました

文学部卒業・文学研究科修了の同窓生は、どんな活躍をしているでしょうか。また、学統を支えた先達の業績は、どう伝えられているでしょうか。目に見えるものとして、新刊書を中心に書店や公共図書館で読むことのできる著作物を探ってみました。今後は、もっと幅広く、論壇誌や新聞などでの発言や論文にも目配りをし、活躍ぶりを伝えていきたいと思えます。情報をお寄せください。

**先達の最新ニュース  
多田等観博士の幻の名著『チベット』復刊!!**

1935―43年の間、講師の職にあり、チベット語によるインド仏教研究、チベット仏教史研究の火を灯した多田等観博士(1890―1967)。ダライ・ラマ13世の知遇を得てラサで仏法を学びました。帰国の際に持ち帰った数多くのチベット文献は東北大学図書館に所蔵されており、その一部をなす「西藏大蔵経」は国宝となっています。

1942年に博士が著した「チベット」は永らく絶版となっていました。2008年7月、岩波新書創刊70周年記念復刊シリーズの一冊として復刊されました。



**中村靖彦著  
『ウォーター・ビジネス』  
(2004 岩波新書)**

2004年発行と、ちょっと古くなりますが、環境問題が重要な課題となっているいま、見逃せない一冊でしょう。「現代人 水を汚して 水を買う」というサリリーマン川柳の一首を引用してまえがきが始められ、水を得るために繰り広げられている現代のウォータービジネスは果たして合理性を持っているかが問い直されています。



**直江兼続も登場する  
中村彰彦著  
『東に名臣あり  
家老列伝』  
(2007 文藝春秋)**



会津藩士・秋月悌次郎を描いた『落花は枝に還らずとも』をはじめ、不思議と会津藩についての作品も多い中村さん。本書では、越後、会津、そして米沢と転封した上杉藩の名家老・直江兼続も登場。2009年NHK大河ドラマ『天地人』の主人公となる兼続について、「春雁吾に似たり吾は雁に似たり 洛陽城裏花に背いて帰らん」の漢詩を紹介しながら関ヶ原の戦前後の姿を美しく描いています。

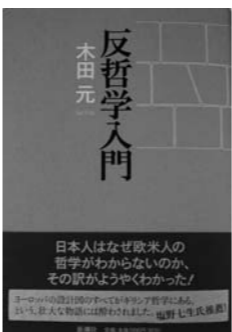
**奥山直司編  
『河口慧海日記 ヒマラヤ・チベットの旅』  
(2007 講談社学術文庫)**



『チベット旅行記』(全5巻 講談社学術文庫)で知られる河口慧海の第一回チベット旅行中に綴った日記(1900年3月12月)が、姪ごさん宅で発見されたのが、2004年晩秋。そのコピーを得た奥山さんが、日記を紹介しながら、日記に基づいて慧海のヒマラヤ・チベット単独潜入の旅を再構築し、あわせて慧海の業績をまとめたものです。チベットを知る絶好の一冊と言えるでしょう。

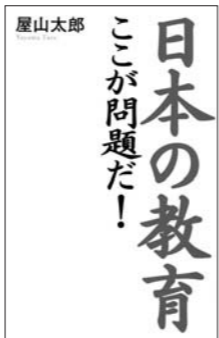
**木田元著『反哲学入門』(2007 新潮社)**

2007年に47歳で夭折した池田晶子著「14歳からの哲学」『41歳からの哲学』や、岩波書店の「哲学塾」シリーズなど、哲学を具体的な社会問題や人生について考える手段として身近なものにする出版が目立っています。本書も、その一冊と位置づけることができるのではないのでしょうか。



**屋山太郎著  
『日本の教育ここが問題だ』  
(2007 海竜社)**

文学部ではフランス文学を専攻し、現在は論壇誌を舞台に政治評論・社会評論で活躍という経歴の屋山さん。「道路公団民営化の内幕」など、数多くの著作、発言で、日本の社会の進路を示しています。



**飛田良文・浅田秀子共著  
『現代副詞用法辞典』  
『現代形容詞用法辞典』  
(1999 東京堂出版)**

本書は、東北大学文学部に脈々と流れる山田孝雄博士以来の国語文学の伝統と言えるのではないのでしょうか。飛田さん、浅田さんには、それぞれリストに記したような単著があるほか、共著によるこのような辞典も目にとまります。辞書のコーナーを丁寧に探れば、このほかにも卒業生の仕事を見つけることができます。



**小野正弘・三井はるみ・竹田晃子ほか編著  
『オノマトペ辞典』(2007 小学館)**

「時に、類義のオノマトペ同士の使い分けを確認し、時に、オノマトペの根源(もと)から理解しながら、オノマトペ・オンパレードとして全部一つの辞典で実現しようとしたのが、本書である。よくばりな辞典である。このよくばりな辞典で、四千五百の、千以上の言葉を並べても言い尽せないオノマトペの世界を楽しんでいただきたい」と、編著者代表として小野さんは、刊行の言葉で記しています。



**山本春樹著『バタックの宗教』(2007 風響社)**

本書はスマトラ島北部のバタック人の宗教生活についてまとめられたものですが、「東北大学に提出し学位を授与された博士論文に基づくもの」だと、あとがきに記されています。宗教学研究室4代教授・楠正弘名誉教授(1965―90年在任)への感謝の言葉も述べられています。

**■主な同窓生の最近著作例  
(五十音氏名順、敬称略)**

- 青木生子(法文学部卒業)**  
『青木生子著作集』(1997-98 おうふう) 他
- 浅田秀子(文学部卒業)**  
『例解同訓異字用法辞典』(2003 東京堂出版) 他
- 有馬哲夫(文学研究科修了)**  
『ディズニーの魔法』(2003 新潮新書) 他
- 飯倉晴武(文学研究科修了)**  
『日本人 礼儀作法のしきたり』(監修 2007 青春出版社) 他
- 井ノ部康之(文学部卒業)**  
『利休遺囑』(2005 小学館文庫) 他
- 大河原美以(文学部卒業)**  
『子どもたちの感情を育てる教師のかかわり』(2007 明治図書) 他
- 岡崎英輔(文学部卒業・文学研究科修了)**  
K・レーヴィット『ハイデガー―乏しき時代の思索者』(共訳 2002 未来社) 他
- 岡堂哲雄(文学部卒業)**  
『家族というストレス』(2006 新曜社)
- 奥山直司(文学部卒業・文学研究科修了)**  
『河口慧海日記』(編 2007 講談社学術文庫) 他
- 小澤俊夫(文学部卒業・文学研究科修了)**  
『語るためのグリム童話集 全7巻』(監訳 2007 小峰書店) 他
- 押野武志(文学研究科単位取得退学)**  
『童貞としての宮沢賢治』(2003 ちくま新書) 他
- 小野正弘(文学研究科修了)**  
『オノマトペ辞典』(共著 2007 小学館) 他
- 川村邦光(文学部卒業・文学研究科修了)**  
『憑依の近代とポリティクス』(編著 2007 青弓社) 他
- 木田元(文学部卒業・文学研究科修了)**  
『反哲学入門』(2007 新潮社) 他
- 今野勉(文学部卒業)**  
『テレビの嘘を見破る』(2004 新潮新書)
- 坂本タクマ(文学部卒業)**  
『坂本タクマの実戦株入門』(2006 白夜書房) 他
- 佐治芳彦(文学部卒業)**  
『超考古史古伝』(2004 徳間書店) 他
- 佐藤郁哉(文学研究科修了)**  
『フィールドワーク 増訂版』(2006 新曜社) 他
- 佐藤賢一(文学研究科修了)**  
『女信長』(2006 毎日新聞社) 他
- 佐藤憲一(文学部卒業)**  
『伊達政宗の手紙』(1995 新潮選書) 他
- 佐藤武敏(文学研究科修了)**  
『中国古代書簡集』(2006 講談社学術文庫) 他
- 鈴木健二(文学部卒業)**  
『氣くぼりのすすめ』(2006 コスモトゥーン) 他
- 高牧實(文学部卒業)**  
『馬琴一家の江戸暮らし』(2003 中公新書) 他
- 滝浦静雄(文学部卒業)**  
『メルロ・ポンティコレクション』(共訳 2001-02 みすず書房)
- 竹田晃子(文学研究科修了)**  
『オノマトペ辞典』(共著 2007 小学館) 他
- 田野崎昭夫(文学部卒業・文学研究科修了)**  
『地域社会の変動と社会計画』(編著 2007 中央大学出版部) 他
- 中村彰彦(文学部卒業)**  
『東に名臣あり 家老列伝』(2007 文藝春秋) 他
- 中村靖彦(文学部卒業)**  
『ウォーター・ビジネス』(2004 岩波新書) 他
- 新野直吉(文学部卒業)**  
『秋田美人の謎』(2006 中公文庫) 他
- 布川寛人(文学部卒業)**  
『へるたー・すけるたー』(2004 文芸社) 他
- 飛田良文(文学研究科修了)**  
『明治生まれの日本語』(2002 淡交社) 他
- 深井甚三(文学部卒業・文学研究科修了)**  
『越中・能登と北陸街道』(2002 吉川弘文館) 他
- 星亮一(文学部卒業)**  
『偽りの明治維新』(2008 だいわ文庫) 他
- 松長有慶(文学研究科修了)**  
『理趣経 改訂版』(2002 中公文庫BIBLO) 他
- 宮坂有勝(文学部卒業)**  
『空海密教の宇宙 その哲学を読み解く』(2008 大法輪閣) 他
- 三井はるみ(文学研究科修了)**  
『オノマトペ辞典』(共著 2007 小学館) 他
- 山折哲雄(文学部卒業・文学研究科博士課程単位取得退学)**  
『日本人の顔 画像から文化を読む』(2008 光文社) 他
- 山田史生(文学部卒業・文学研究科修了)**  
『寝床で読む論語』(2006 ちくま新書) 他
- 山本春樹(文学研究科修了)**  
『バタックの宗教』(2007 風響社) 他
- 屋山太郎(文学部卒業)**  
『日本の教育ここが問題だ!』(2007 海竜社) 他
- 若松正志(文学部卒業・文学研究科修了)**  
『日蘭交流史その人・物・情報』(2002 思文閣出版) 他